

# 棚田サミット準備着々 23、24日玄海 町の魅力を発信

2015年10月12日



浜野浦の棚田にソバの種をまく大勢の住民ら（玄海町で）

棚田の保全や、棚田がある地域の活性化について考える「第21回全国棚田（千枚田）サミット」が23、24日、玄海町で初めて開かれる。同町には日本の棚田百選の一つ「浜野浦の棚田」があり、毎年田植えの時期などに多くの人を訪れる重要な観光資源だ。サミット期間中は全国各地から関係者約650人が訪れる予定で、町や住民はこの一大イベントを町のPRにつなげようと、官民一体で準備を進めている。（中西瑛）

## ■花や歌で歓迎

9月下旬。浜野浦の棚田に、農家で作る浜野浦棚田保全組合の組合員やボランティア約40人が集まった。サミットに向けてソバの種を植えるためだ。参加者は急な傾斜のあぜ道を移動しながら、約400キロの種をまいた。サミットまでには、小さな白い花が棚田いっぱい咲き誇るという。

同組合は観光客向けに、数年前から棚田にヒガンバナや菜の花を植え、米の収穫後も景観を楽しめるように工夫している。ただ、後継者不足などで組合員の数が減り、10年前の18人から13人になった。

同組合の松本正弘組合長（63）は「棚田での農作業は苦勞も多く、後継者がなかなか見つからない。後世に美しい風景を残すためにも、たくさんの人に来てもらい、棚田を知ってほしい」と語る。

また、町内に2か所ある保育所では、公式テーマソング「棚田へ行こう！」の歌と振り付けの練習を行っている。23日に園児約50人がオープニングイベントで披露する予定だ。

## ■観光もPR

浜野浦の棚田は大小283枚の水田で構成され、海岸から斜面に沿って連なっている。戦国から江戸時代にかけて、石を積み上げて形成し、総面積は約12ヘクタールに上る。2007年には、NPO法人・地域活性化支援センター（静岡市）が、プロポーズに適した場所として「恋人の聖地」に認定した。

「棚田が全国的に有名になったことで、玄海町の観光の扉を開いた。特産品も合わせてPRし、町の魅力発信の場にしたい」。玄海町産業振興課の小野茂行係長は話す。

サミット参加者のうち約500人は県外からで、山形や千葉、新潟県など36都府県の自治体関係者も約200人いる。

23日の交流会では、町特産の鯛の塩焼きや和牛、カキなどが振る舞われる予定。乾杯は、棚田米で造られた鳴滝酒造の日本酒「音音」で行う。現在は生産数が少なく一般販売をしていないが、ゆくゆくは玄海町の特産として販売していきたい考えだ。

また、24日には全4コースの現地見学会を実施。棚田の石垣は、石を加工しないで積み上げた野面積みで、名護屋城の石垣と似ていることから、豊臣秀吉が築城の際に全国から呼び寄せた石工集団の子孫らが造ったとされている。見学会では名護屋城まで足を伸ばし、関連性を検証するコースも用意されている。

小野係長は「全国的に棚田を残すことは難しくなっている。サミットを通じて、見た目の美しさや歴史的な価値をPRし、保全につなげたい」と話している。